

シリーズ5年上第4回・くわしい解説

- ・ 公式をただあてはめるのではなく，線分図を書くなどして，よく意味を考えて解くこと。
- ・ 配り方が平等ではない場合は，平等に配った場合はどうなるかを考えて解くこと。

目次

基本	1	(1) …p.2
基本	1	(2) …p.2
基本	1	(3) …p.3
基本	1	(4) …p.3
基本	1	(5) …p.4
基本	1	(6) …p.5
基本	1	(7) …p.6
基本	1	(8) …p.7
基本	2	…p.8
基本	3	…p.9
基本	4	…p.10
練習	1	…p.11
練習	2	…p.13
練習	3	…p.14
練習	4	…p.15
練習	5	…p.17
練習	6	…p.19

すぐる学習会

<https://www.suguru.jp>

基本 1 (1)

ワンポイント 差を集める考え方を理解していれば、簡単です。

ガム1個20円で、チョコレートは1個50円ですから、1個のガムと1個のチョコレートでは、 $50 - 20 = 30$ (円)の差がつきます。

もし、2個のガムと2個のチョコレートならば、 $30 \times 2 = 60$ (円)の差がつきます。

もし、5個のガムと5個のチョコレートならば、 $30 \times 5 = 150$ (円)の差がつきます。

逆に、ガムとチョコレートを同じ数ずつ買って、150円の差がついたとしたら、ガムを $150 \div 30 = 5$ (個)、チョコレートも5個を買ったことになります。

この問題では、ガムとチョコレートを同じ数ずつ買って、120円の差がついたのですから、ガムを $120 \div 30 = 4$ (個)、チョコレートも4個買ったことになります。

基本 1 (2)

ワンポイント 値引きぶんが集まっていきます。

モモ1個につき20円値引きされていたので、モモ9個だと、 $20 \times 9 = 180$ (円)の値引きになります。

よって、ちょうどのお金よりも **180** 円だけあまったことになります。

基本 1 (3)

7ポイント 差が集まっていきます。

1個100円のリングと1個60円のミカンでは、1個あたり $100 - 60 = 40$ (円)の差がつきます。

もし、リングとミカンを5個ずつ買ったとすると、 $40 \times 5 = 200$ (円)の差がつきます。

もし、リングとミカンを8個ずつ買ったとすると、 $40 \times 8 = 320$ (円)の差がつきます。

逆に、リングとミカンを同じ数ずつ買って、320円の差がついたとすれば、 $320 \div 40 = 8$ (個)ずつ買ったこととなります。

この問題では、280円の差がついたので、 $280 \div 40 = 7$ (個)ずつ買ったこととなります。

1個100円のリングを7個ちょうど買うだけのお金を持っていったのですから、 $100 \times 7 = 700$ (円)持っていったこととなります。

基本 1 (4)

7ポイント 6 mを600 cmに直します。

もし、兄と弟の1歩の差が10 cmならば、40歩で、 $10 \times 40 = 400$ (cm)の差がつきます。

もし、兄と弟の1歩の差が20 cmならば、40歩で、 $20 \times 40 = 800$ (cm)の差がつきます。

逆に、兄と弟が40歩進んで800 cmの差がついたとすれば、1歩あたり、 $800 \div 40 = 20$ (cm)の差があったこととなります。

いまは、兄と弟が40歩進んで、6 m = 600 cmの差がついたのですから、1歩あたり、 $600 \div 40 = 15$ (cm)の差があったこととなります。

基本 1 (5)

7ポイント 「35個の不足」と「5個の不足」には、何個の差があるでしょう。

問題の内容を整理すると、次のようになります。

1人に4個ずつ → 35個不足
1人に3個ずつ → 5個不足

1人に4個ずつ配ると、1人に3個ずつ配るのでは、1人あたり、 $4 - 3 = 1$ (個)の差があります。

その結果、「35個不足」と「5個不足」になりました。

「35個不足」と「5個不足」では、 $35 - 5 = 30$ (個)の差があります。

1人あたり1個の差が集まって、30個の差になったのですから、 $30 \div 1 = 30$ (人)いました。

また、消しゴムのは数は、1人に4個ずつ30人に配ると35個不足するのですから、 $4 \times 30 - 35 = 85$ (個)です。

または、1人に3個ずつ30人に配ると5個不足するのですから、 $3 \times 30 - 5 = 85$ (個)と求めてもOKです。

基本 1 (6)

7ポイント 「1000円あまる」と「2200円不足」には、何円の差があるでしょう。

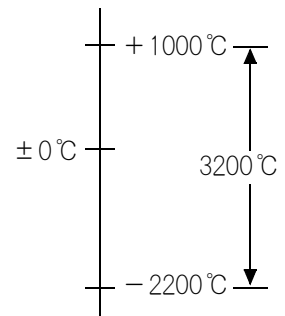
問題の内容を整理すると、次のようになります。

1人に500円ずつ → 1000円あまる
1人に400円ずつ → 2200円不足

全体としては、「1000円あまり」と「2200円不足」になりました。

「1000円あまり」と、「2200円不足」は、大ちがいです。

たとえば気温でも、プラス1000℃と、マイナス2200℃では、大ちがい。
 $1000 + 2200 = 3200$ (℃)ちがいになります。



注意 本当は、気温は、マイナス273℃より低い温度はありません。
 高い温度はいくらでもありますが。

つまり、「1000円あまり」と、「2200円不足」では、 $1000 + 2200 = 3200$ (円)ちがいになります。

なぜ3200円ちがいになったかという、1人から集める費用がちがうからです。

1人500円ずつ集めるのと、1人400円ずつ集めるのでは、 $500 - 400 = 100$ (円)ちがいます。

1人あたり100円ちがいというのが、人数が多くなると、どんどん大きくなって行って、最終的には、3200円ちがいになってしまった、ということです。

よって、クラスの人数は $3200 \div 100 = 32$ (人)です。

また、32人全員から500円ずつ集めると、 $500 \times 32 = 16000$ (円)集まりますが、このときは1000円あまっています。

つまり、クラス会を開くには16000円も必要ではなく、 $16000 - 1000 = 15000$ (円)あれば開くことができる、ということになります。

または、32人全員から400円ずつ集めると、 $400 \times 32 = 12800$ (円)集まりますが、このときはクラス会を開くには2200円足りない、クラス会の費用は $12800 + 2200 = 15000$ (円)、と求めてもOKです。

基本 1 (7)

7ポイント 「29人がすわれない」というのは、29人があまっているのか、不足しているのか、どちら？

1脚に7人ずつすわると、29人がすわれずにあまっています。

1脚に10人ずつすわると、2人がすわれずにあまっています。

1脚に7人ずつ → 29人あまる
1脚に10人ずつ → 2人あまる

1脚に7人ずつすわるのと、1脚に10人ずつすわるのでは、1脚あたり、 $10 - 7 = 3$ (人)の差があります。

その結果、「29人あまり」と「2人あまり」になりました。

「29人あまり」と「2人あまり」では、 $29 - 2 = 27$ (人)の差があります。

なぜ27人の差があるかというと、1脚あたり3人ずつの差があるからです。

1脚あたり3人の差というのが、長いすの数が多くなると、どんどん大きくなっていって、最終的には、27人の差になってしまった、ということです。

よって、長いすの数は $27 \div 3 = 9$ (脚)です。

また、9脚に7人ずつすわると29人があまるのですから、生徒の人数は、 $7 \times 9 + 29 = 92$ (人)です。

または、9脚に10人ずつすわると2人があまるのですから、 $10 \times 9 + 2 = 92$ (人)と求めてもOKです。

基本 1 (8)

7ポイント 「さらに1人に2枚ずつ」というのは、結局1人あたり何枚配ったことになりますか？

1人に5枚ずつ配ったら、70枚あまりました。

さらに1人に2枚ずつ追加で配ったというのは、1人に5枚ずつ配ったあとに、さらに2枚ずつ配ったわけですから、結局1人あたり、 $5+2=7$ (枚)ずつ配ったわけです。このとき、18枚あまりました。

1人に5枚ずつ → 70枚あまる
1人に7枚ずつ → 18枚あまる

1人に5枚ずつ配るのと、1人に7枚ずつ配るのでは、1人あたり、 $7-5=2$ (枚)の差があります。

その結果、「70枚あまる」と「18枚あまる」になりました。

「70枚あまる」と「18枚あまる」では、 $70-18=52$ (枚)の差があります。

なぜ52枚の差があるかという、1人あたり2枚ずつの差があるからです。

1人あたり2枚の差というのが、人数が多くなると、どんどん大きくなって行って、最終的には、52枚の差になってしまった、ということです。

よって、子どもの人数は $52 \div 2 = 26$ (人)です。

また、26人に5枚ずつ配ると70枚があまるのですから、シールの枚数は、 $5 \times 26 + 70 = 200$ (枚)です。

または、26人に7枚ずつ配ると18枚があまるのですから、 $7 \times 26 + 18 = 200$ (枚)と求めてもOKです。

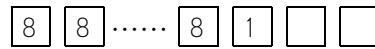
基本 2 (1)

7ポイント 図をしっかり書くことが大切です。

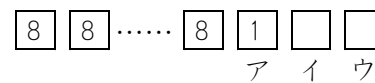
1脚に6人ずつすわると、7人がすわれません。



1脚に8人ずつすわると、1人しかすわっていない長いすが1脚と、だれもすわっていない長いすが2脚できます。



右の図において、本当は1脚に8人ずつすわらせなかったのですから、アの長いすには $8-1=7$ (人)、イの長いすには8人、ウの長いすにも8人ぶんの空席がありました。

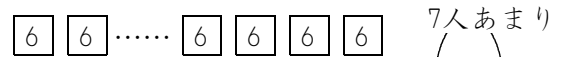


空席は全部で、 $7+8\times 2=23$ (人分)あります。

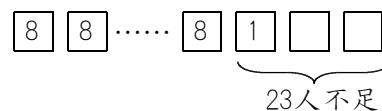
基本 2 (2)

7ポイント 空席があるということは、人が多すぎるのか不足なのか、さてどっち？

1脚に6人ずつすわると、7人がすわれません。つまり、7人があまっています。



1脚に8人ずつすわると、23人ぶんの空席ができます。つまり、すべての長いすに8人ずつすわらせるには、23人が不足しています。



まとめると、右の表のようになります。

1脚6人ずつ…	7人あまり
1脚8人ずつ…	23人不足

「7人あまり」と「23人不足」とは大ちがいで、 $7+23=30$ (人)ちがいです。

30人ちがってしまった理由は、1脚あたりのすわる人数が、 $8-6=2$ (人)ずつちがうからです。

よって、長いすの数は、 $30\div 2=15$ (脚)です。

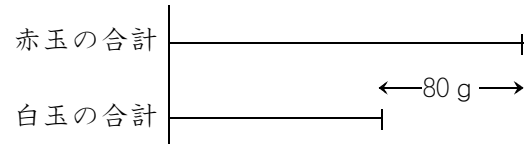
15脚に6人ずつすわらせると7人あまるので、人数は $6\times 15+7=97$ (人)になります。

または、15脚に8人ずつすわらせると23人不足するので、人数は $8\times 15-23=97$ (人)と求めてもOKです。

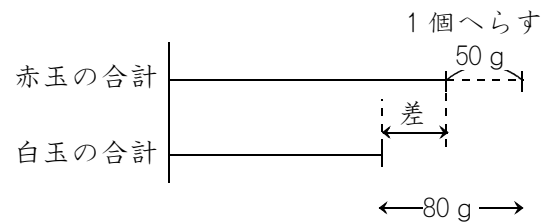
基本 3 (1)

フンポイント 赤玉を1個へらすと、赤玉の重さの合計はどうなるでしょう。

赤玉を1個へらす前は、赤玉の合計の方が、白玉の合計よりも、80g重くなっていました。



赤玉1個は50gですから、赤玉を1個へらすと、赤玉の合計の方が50g軽くなり、右の図のようになります。



よって、赤玉の合計は、白玉の合計よりも、 $80 - 50 = 30$ (g)重いでしょうになります。

基本 3 (2)

フンポイント (1)を利用します。

(1)では、赤玉の個数を1個へらしました。
へらした理由は、赤玉の個数と白玉の個数を同じにするためです。

(1)では、赤玉の合計は、白玉の合計よりも30g重くなりました。

赤玉と白玉の個数を同じにしたのに、なぜ赤玉の合計と白玉の合計が同じ重さにならず、赤玉の合計の方が30g重くなっているのでしょうか。

その理由は、赤玉1個の方が、白玉1個よりも、 $50 - 45 = 5$ (g)重いからです。

1個あたり5g重いというのが、個数が多くなると、どんどん差が広がって行って、最終的には、30g重いでしょうになってしまった、ということです。

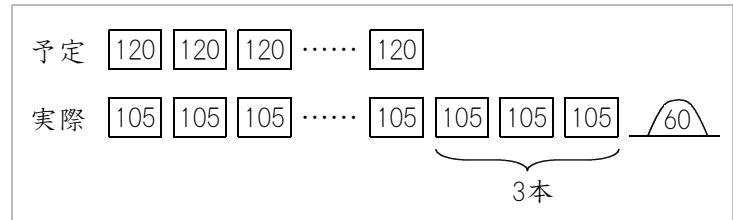
よって、赤玉と白玉は、それぞれ $30 \div 5 = 6$ (個)ずつある、ということがわかりました。
赤玉は1個へらしていますが、白玉はそのままなので、白玉は6個あることになります。

白玉1個の重さは45gですから、白玉の重さの合計は、 $45 \times 6 = 270$ (g)になります。

基本 4 (1)

ワンポイント 図を書くと、意味がわかりやすくなります。

1本120円のお茶を何本か買う予定で、お金をちょうど持っていきましたが、1本105円に安くなっていたので、予定よりも3本多く買えて、60円あまりました。



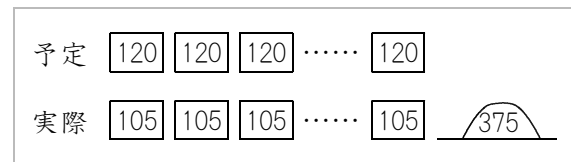
もし、3本多く買うのをやめて、予定の本数だけ買うと、1本105円のお茶が3本ぶんだけ、さらにあまります。

$105 \times 3 = 315$ (円)だけさらにあまることになるので、 $315 + 60 = 375$ (円)あまることになります。

基本 4 (2)

ワンポイント (1)を利用します。

(1)で、1本105円のお茶を予定の本数だけ買うと、375円があまることがわかりました。



1本120円のお茶を買う場合はぴったりあまらないのに、1本105円のお茶の場合は375円もあまる理由は何でしょう。

それは、1本あたり、 $120 - 105 = 15$ (円)ずつ安いからです。

1本あたり15円安いというのが、本数が多くなると、どんどん差が広がって行って、最終的には、375円安いじょうたいになってしまった、ということです。

よって、買う予定の本数は、 $375 \div 15 = 25$ (本)です。

1本120円のお茶を25本ちょうど買うだけのお金を持っていました。

よって、持っていったお金は、 $120 \times 25 = 3000$ (円)です。

または、 $105 \times 25 + 375 = 3000$ (円)と求めてもOKです。

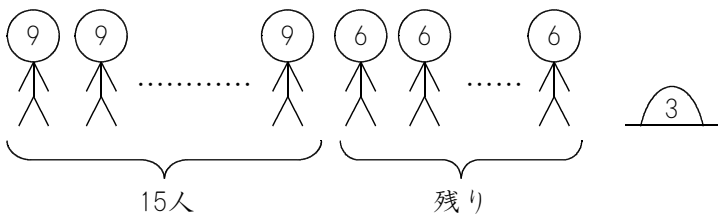
さらに、 $105 \times (25 + 3) + 60 = 3000$ (円)でもOKです。

練習 1 (1)

7ポイント ひいきしている15人から、アメをうばってしまいましょう。

問題に、「15人には9個ずつ、残りの参加者には6個ずつ配ったら、3個あまった」と書いてありました。

このことを図に表したのが、下の図です。

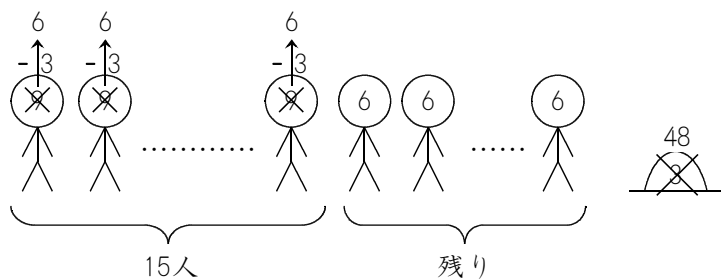


配り方が平等ではないですね。はじめの15人が、トクをしています。

平等にするためには、はじめの15人から、アメをうばう必要があります。

ただし、はじめの15人から、アメを9個ずつうばったとしたら、うばいすぎですね。この15人のアメが0個になってしまいます。

残りの人と平等にするためには、この15人から、アメを $9 - 6 = 3$ (個) ずつうばえば、全員にアメを6個ずつ配ることになり、平等になります。



うばったのは、全部で $3 \times 15 = 45$ (個) です。この45個をあまりの部分にふやして、あまりを $3 + 45 = 48$ (個) にします。

よって、アメを全員に6個ずつ配ることにすると、48個あまることがわかりました。

練習 1 (2)

フンポイント 問題の内容を整理しましょう。

問題文には、全員にアメを8個ずつ配るには26個足りないことが、書いてありました。
また、(1)で、全員にアメを6個ずつ配ることになると、アメは48個あまることがわかりました。

1人に8個ずつ → 26個不足
1人に6個ずつ → 48個あまる

1人に8枚ずつ配るのと、1人に6個ずつ配るのでは、1人あたり、 $8 - 6 = 2$ (個)の差があります。

その結果、「26個不足」と「48個あまり」になりました。

「26個不足」と「48個あまり」は大ちがいで、 $26 + 48 = 74$ (個)の差があります。

なぜ74個の差があるかというと、1人あたり2個ずつの差があるからです。

1人あたり2個の差というのが、人数が多くなると、どんどん大きくなって行って、最終的には、74個の差になってしまった、ということです。

よって、参加者の人数は $74 \div 2 = 37$ (人)です。

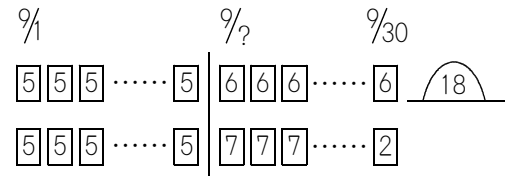
また、37人に8個ずつ配ると26個不足するのですから、アメの個数は、 $8 \times 37 - 26 = 270$ (個)です。

または、37人に6個ずつ配ると48個があまるのですから、 $6 \times 37 + 48 = 270$ (個)と求めてもOKです。

練習 2

7ポイント 「最後の日に2ページを読んで読み終わる」ということは、「あまり？」それとも「不足？」

9月1日から何日間かは、毎日5ページずつ
読んだのですが、ある日から6ページずつ読んだ
としたら、18ページあまります。



また、ある日から7ページずつ読んだとしたら、最後の日に2ページだけ読んで、読み終わります。
本当は最後の日も7ページ読むべきなのですが、2ページだけ読んだということは、読むページ数が、 $7-2=5$ (ページ) 足りない、ということです。

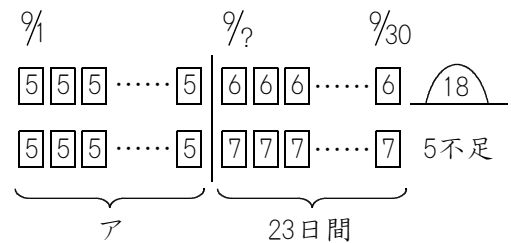
ある日から、毎日6ページずつ → 18ページあまる
ある日から、毎日7ページずつ → 5ページ不足

「18ページあまる」と「5ページ不足」は、 $18+5=23$ (ページ) の差があります。

1日あたり、 $7-6=1$ (ページ) ずつ差がつきますから、23ページの差になるのは、 $23 \div 1 = 23$ (日間) 読んだときです。

よって右の図のようになり、アは、 $30-23=7$ (日間) です。

この本のページ数は、 $5 \times 7 + 6 \times 23 + 18 = 191$ (ページ) になります。

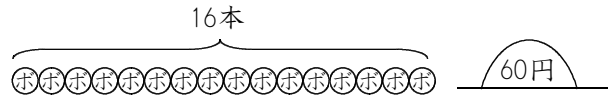


または、 $5 \times 7 + 7 \times 23 - 5 = 191$ (ページ) でもOKです。

練習 3 (1)

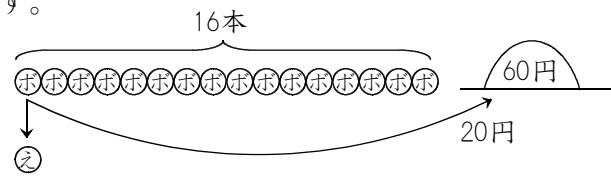
ワンポイント 図を書いて整理しましょう。

持っているお金で、ボールペン16本を買くと60円あまることが、問題に書いてありました。

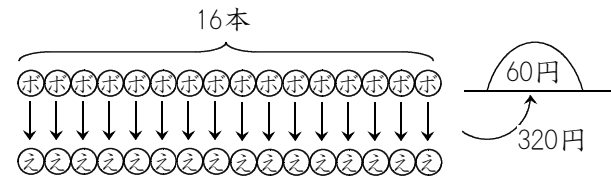


ボールペン1本はえんぴつ1本よりも20円高いです。
 ということは、ボールペン1本をえんぴつ1本に変更すると、20円安くなります。

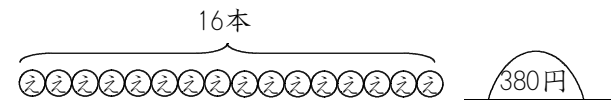
安くなったぶんの20円は、あまりのお金である60円のところに、プラスしてあげます。



このことを16本ぶんくり返すと、 $20 \times 16 = 320$ (円)安くなり、安くなったぶんの320円は、あまりのお金である60円のところに、プラスしてあげて、あまりのお金は $60 + 320 = 380$ (円)になります。



つまりAさんが持っているお金は、えんぴつを16本買くと、**380円**あまるようなお金であることがわかりました。



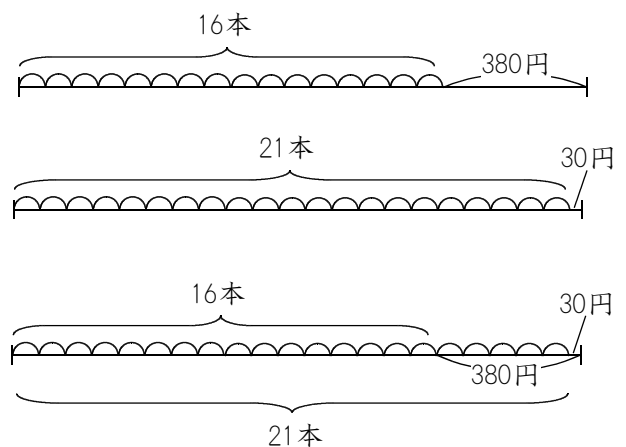
練習 3 (2)

ワンポイント (2)も、図を書いて整理しましょう。

(1)で、Aさんが持っているお金は、えんぴつを16本買くと、380円あまるようなお金であることがわかりました。

また、えんぴつを21本買くと、30円あまるようなお金であることも、問題に書いてありました。

ですから、えんぴつ $21 - 16 = 5$ (本)ぶんの
 お金が、 $380 - 30 = 350$ (円)です。
 えんぴつ1本は、 $350 \div 5 = 70$ (円)です。



Aさんは、1本70円のえんぴつを16本買くと380円あまるようなお金ですから、 $70 \times 16 + 380 = 1500$ (円)です。 ($70 \times 21 + 30 = 1500$ 円 と求めてもOKです。)

練習 4 (1)

7ポイント まず、ガムとチョコレートのどちらを多く買ったかを考えましょう。

もし、ガムとチョコレートを同じ個数買う予定だったとしたら、個数を逆にしても同じ個数なので、代金は変わりません。

しかし予定と実際では、代金がちがったのですから、同じ個数を買ったわけではありません。

では、どちらを多く買う予定だったのでしょうか。

もし、ガムを多く買う予定だったとしたら、実際には個数を逆にしたので、チョコレートを多く買うことになり、その方が代金は高くなります。

もし、チョコレートを多く買う予定だったとしたら、実際には個数を逆にしたので、ガムを多く買うことになり、その方が代金は安くなります。

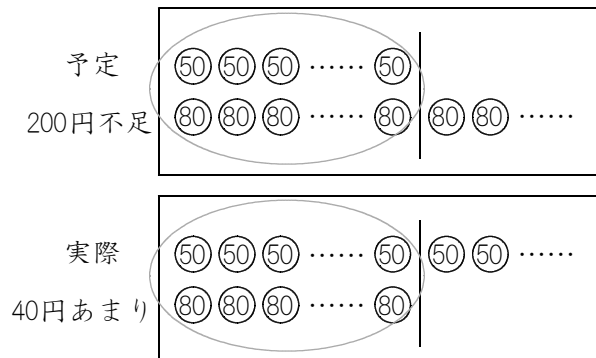
問題を見ると、予定では持っているお金では200円足りませんでした。実際には個数を逆にしたので、買うことができ40円あまりました。つまり、実際の方が安くなったので、ちゃんと買えてしかもあまりが出たのです。

つまり、この問題では実際の方が安くなったのですから、チョコレートを多く買う予定だったことがわかります。実際には個数を逆にしたので、ガムを多く買うことになりました。

右のような図になります。

予定では「200円不足」、
実際では「40円あまり」ですから、その差は、
 $200 + 40 = 240$ (円)です。

右の図のマルとマルの部分はまったく同じ
お金なので、240円の差は、マルをつけてい
ない部分で差がつかしました。



マルをつけていない部分は、1個あたり、 $80 - 50 = 30$ (円)の差です。
この、1個あたりの差がどんどん積み重なって、240円の差になりました。

よって、マルをつけていない部分は、 $240 \div 30 = 8$ (個)あることがわかりました。

つまり、実際に買った個数は、**ガム**の方が**8**個多いことがわかりました。

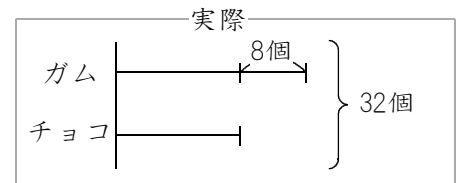
練習 4 (2)

フンポイント (1)では、まだ「合わせて32個」という条件を使っていないことに注意しましょう。

(1)で、実際に買った個数は、ガムの方が8個多いことがわかりました。

また、問題文には、ガムとチョコレートを合わせて32こ買うことがわかっています。

線分図にすると、右のようになります。



実際に買ったチョコレートは、 $(32 - 8) \div 2 = 12$ (個)で、
ガムは、 $12 + 8 = 20$ (個)です。

1個50円のガムを20個と、1個80円のチョコレートを12個買ったなら、40円あまったのですから、はじめに持って行ったお金は、 $50 \times 20 + 80 \times 12 + 40 = 2000$ (円)です。

練習 5 (1)

7ポイント まず、サインペンとけい光ペンのどちらを多く買ったかを考えましょう。

もし、サインペンとけい光ペンを同じ本数買う予定だったとしたら、本数を逆にしても同じ本数なので、代金は変わりません。

しかし予定と実際では、代金がちがったのですから、同じ本数を買ったわけではありません。

では、どちらを多く買う予定だったのでしょうか。

もし、サインペンを多く買う予定だったとしたら、実際には本数を逆にしたので、けい光ペンを多く買うことになり、その方が代金は安くなります。

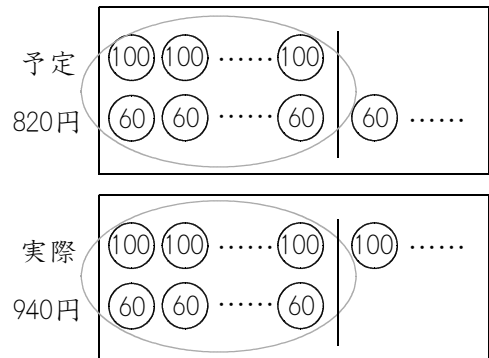
もし、けい光ペンを多く買う予定だったとしたら、実際には本数を逆にしたので、サインペンを多く買うことになり、その方が代金は高くなります。

問題を見ると、予定では820円、実際では940円ですから、実際の方が高くなったので、実際にはサインペンを多く買ったことになります。

右のような図になります。

予定と実際の差は $940 - 820 = 120$ (円) です。

右の図のマルとマルの部分はまったく同じお金なので、120円の差は、マルをつけていない部分で差がつかしました。



マルをつけていない部分は、1本あたり、 $100 - 60 = 40$ (円)の差です。
この、1本あたりの差がどんどん積み重なって、120円の差になりました。

よって、マルをつけていない部分は、 $120 \div 40 = 3$ (本)あることがわかりました。

つまり、実際に買った本数は、**サインペン**の方が**3本**多いことがわかりました。

練習 5 (2)

7ポイント サインペンとけい光ペンの組を作ります。

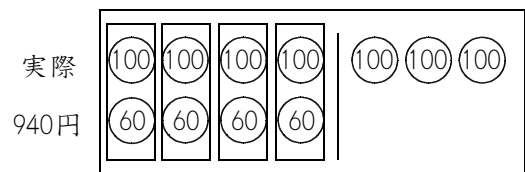
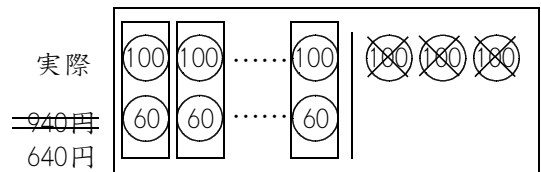
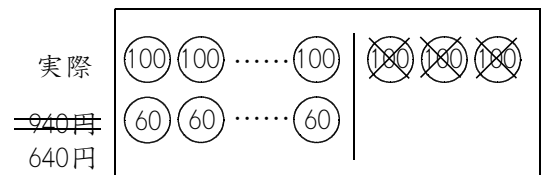
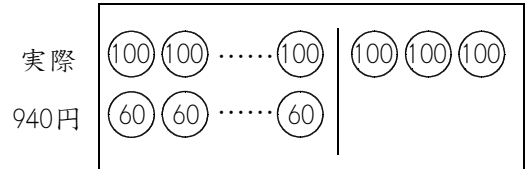
(1)で、実際に買った本数は、サインペンの方が3本多いことがわかりました。

サインペン3本の代金は、 $100 \times 3 = 300$ (円)です。

その300円ぶんを取りのぞくと、 $940 - 300 = 640$ (円)になります。

右の図のように、サインペン1本とけい光ペン1本を1組にすると、1組は $100 + 60 = 160$ (円)ですから、 $640 \div 160 = 4$ (組)あります。

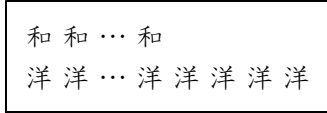
よって、実際に買ったサインペンは $4 + 3 = 7$ (本)、けい光ペンは **4** 本であることがわかりました。



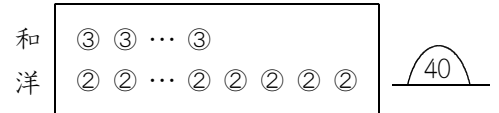
練習 6

7ポイント 洋室を4部屋少なくして、同じ部屋数にします。

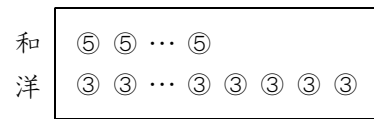
和室は洋室よりも4部屋少なくなっています。



和室に3人ずつ、洋室に2人ずつ入ると40人が入れず、



和室に5人ずつ、洋室に3人ずつ入るとぴったりです。

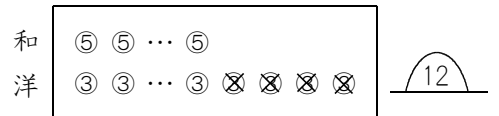


洋室を4部屋少なくして、和室と同じ部屋数にします。

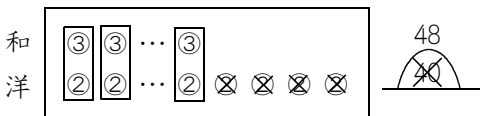
和室に3人ずつ、洋室に2人ずつ入れるとき、洋室を4部屋少なくすると、 $2 \times 4 = 8$ (人)が洋室の部屋に入れなくなり、 $40 + 8 = 48$ (人)があまってしまいます。



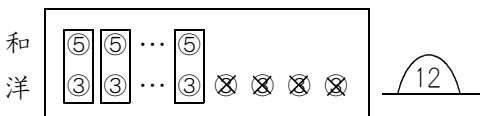
和室に5人ずつ、洋室に3人ずつ入れるとき、洋室を4部屋少なくすると、 $3 \times 4 = 12$ (人)が洋室の部屋に入れなくなり、ちょうどぴったり入れていたのが、12人があまっているじょうたいになります。



右の図のように、和室1部屋と洋室1部屋で1組にすると、1組あたり $3 + 2 = 5$ (人)ずつ入ると48人あまり、



1組あたり $5 + 3 = 8$ (人)ずつ入ると12人あまることになります。



1組あたり 5人ずつ → 48人あまり
 1組あたり 8人ずつ → 20人あまり

1組あたり $8 - 5 = 3$ (人)の差で、「48人あまり」と「12人あまり」では、 $48 - 12 = 36$ (人)の差ですから、 $36 \div 3 = 12$ (組)あることになります。

12組に5人ずつ入ると48人あまるので、団体の人数は、 $5 \times 12 + 48 = 108$ (人)です。

(または、12組に8人ずつ入ると12人あまるので、 $8 \times 12 + 12 = 108$ 人です。)

また、1組は和室1部屋と洋室1部屋でしたから、12組ならば、和室12部屋と洋室12部屋です。本当は洋室があと4部屋多くあるので、洋室は $12 + 4 = 16$ (部屋)です。

和室は **12** 部屋、洋室は **16** 部屋、団体の人数は **108** 人であることがわかりました。